

資料 4

滋賀県産業振興ビジョンの改定 ＜論点整理＞

滋賀県商工観光労働部商工政策課
平成31年（2019年）3月

今後のスケジュール



- 3月20日 第2回審議会（論点整理等）
- 5月下旬 第3回審議会（骨子案検討等）
- 7月頃 第4回審議会（原案検討等）
- 8月頃 県民政策コメント実施（1か月）
- 9月頃 第5回審議会（とりまとめ）
- 10月頃 審議会答申
- 11月議会 定例会議に改定状況報告（ビジョン案）
- 来年2月議会 定例会議に上程

<本日の論点>

【論点1】 どんなビジョンをつくるのか

【論点2】 「産業」の捉え方

【論点3】 ビジョンの期間

【論点4】 基本理念・目指す姿

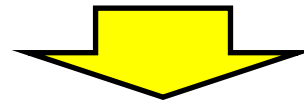
【論点5】 産業振興の基本的方向

【論点1】 どんなビジョンをつくるのか

・県民が共感できる、わかりやすいビジョン



例：企業等のビジョンを
参考に作成してはどうか



・新しいビジョン、新しい時代志向で進めていく

(参考資料) 経営計画・ビジョンの例

滋賀銀行 第7次中期経営計画(2019～)

第6次中期経営計画の振り返り

当行のマテリアリティ(重要課題)

サステナビリティビジョン(長期ビジョン)

目指すべき姿と中期経営計画の関係

第7次中期経営計画の概要

計画期間についての考え方

第7次中期経営計画 挑戦指標

SD(Sustainable Development)目標

地域の持続的発展に向けて

マーケットインへの発想への転換

11
ページ

ダイキン 戦略経営計画FUSION20(2018～)

I FUSION20 前半総括

II 後半3カ年計画の考え方と定量目標

III 全社重点戦略

27
ページ

立命館大学 学園ビジョンR2030(2018～)

はじめに

学園ビジョンR2030

学園ビジョンR2030の学園像・人間像

学園ビジョンR2030の政策目標

8
ページ

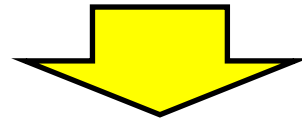
滋賀県立大学 将来構想(USP2025ビジョン)(2017～)

2025年の本学の姿

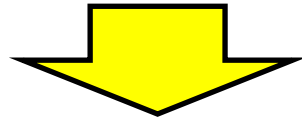
5
ページ

【論点2】 「産業」の捉え方

・ 農業、林業等の第一次産業をどう捉えるか



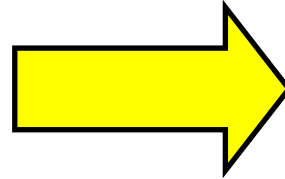
・ 「産業」は第一次産業、第二次産業、第三次産業を含む



・ ビジョンでは、「産業」を広く捉え、従来の区分に捉われない、新しい産業を志向

(参考資料)「産業」の捉え方のイメージ

これまで



これから

各分野ごとの計画で振興

第一次産業
(農林水産物)

第二次産業
(製造業、
建設業等)

第三次産業
(小売業、
サービス業等)

【現状】農商工連携、6次産業化、林業の成長産業化が進むなど、分野の垣根がなくなりつつある。

【ポイント①】
「産業」を幅広く捉える

第一次産業
(農林水産物)

第二次産業
(製造業、
建設業等)

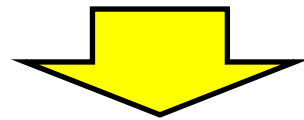
第三次産業
(小売業、
サービス業等)

【ポイント②】
加工・販売、販路開拓、ブランド化等、滋賀の農林水産物の生産性が向上し、付加価値を高める

【ポイント③】
産業振興の観点で、滋賀の様々な産業・企業・人がつながる仕組みづくり

【論点3】 ビジョンの期間

・次期滋賀県基本構想の計画期間は2030年

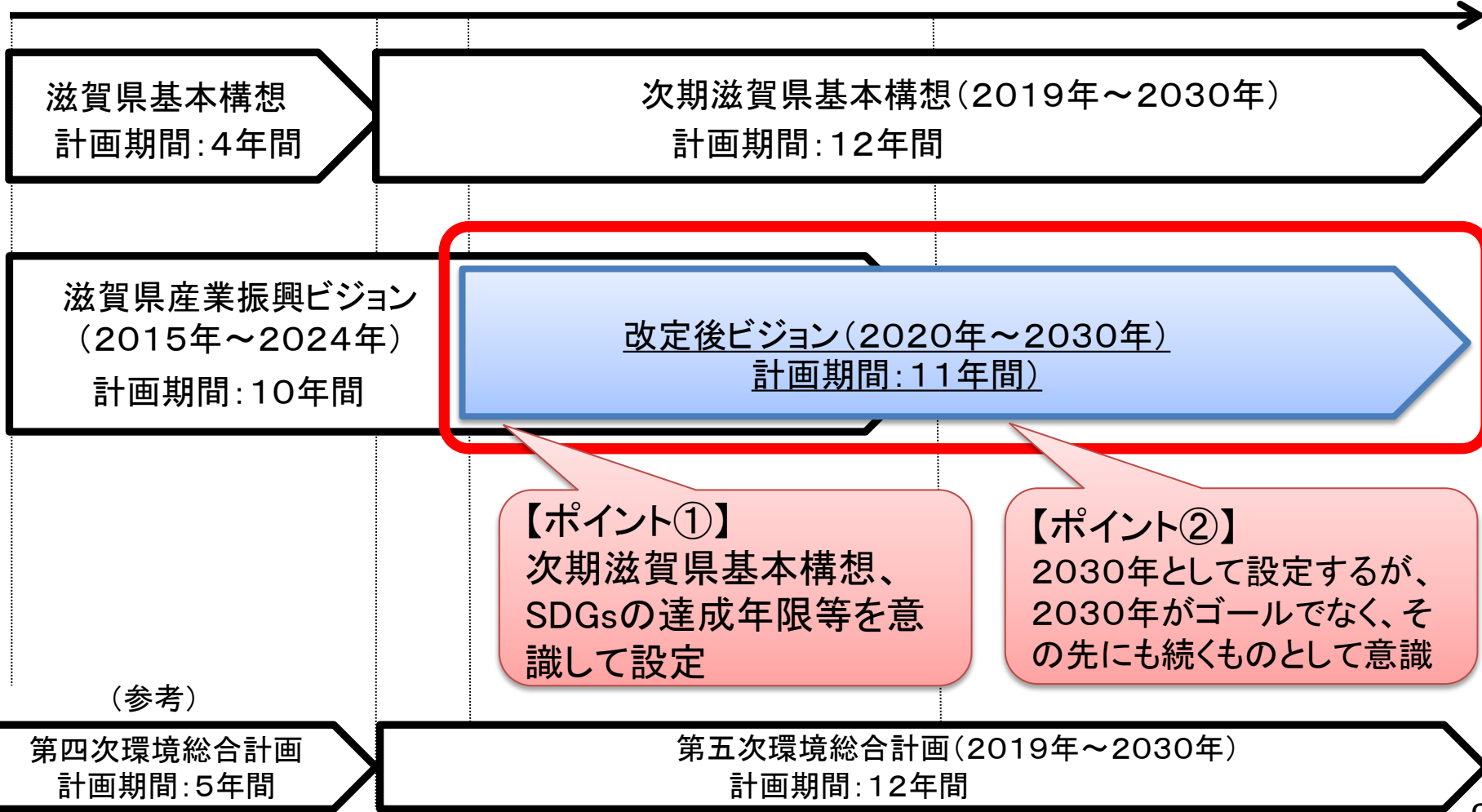


・ビジョンの計画期間も2030年（2020年～2030年、11年間）とする ※必要に応じて見直す

（※現行ビジョンの期間は2024年まで）

(参考資料)ビジョンの計画期間の考え方

2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
				ラグビー W杯	東京 オリパラ	WMG 植樹祭	北陸新幹線 金沢～敦賀 開業		国スポ 全スポ	関西 万博		リニア 開通			SDGs



(参考)

【論点4】 基本理念・目指す姿

次期滋賀県基本構想

・基本理念

「変わる滋賀、続く幸せ (Evolving SHIGA)」

・みんなで目指す2030の姿を描く

「経済・社会・環境の調和による持続可能な滋賀」



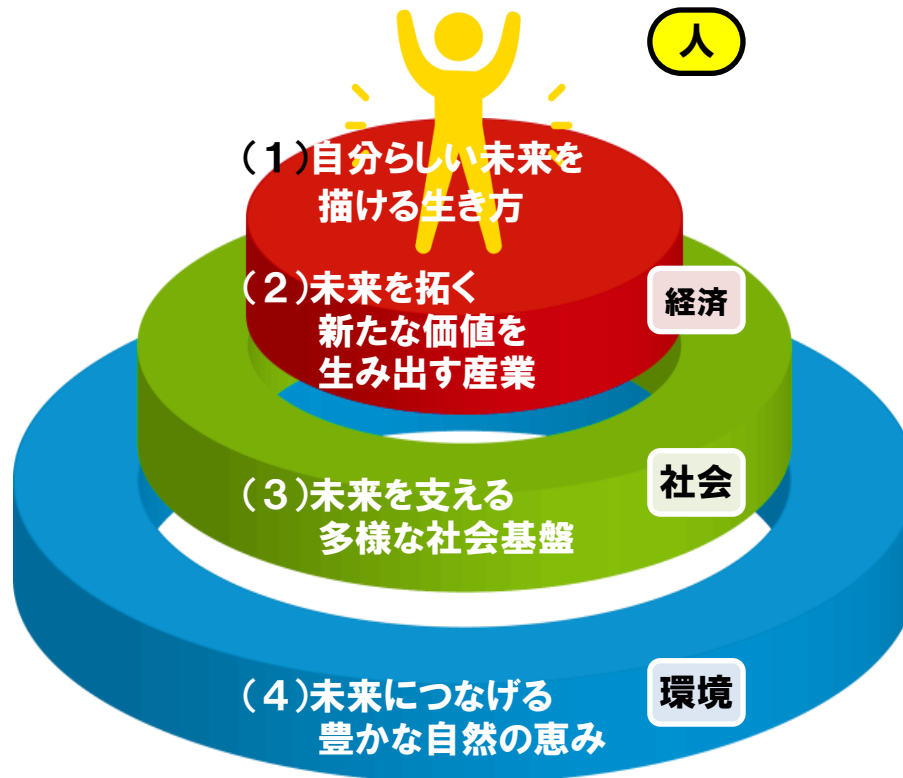
・「変わる滋賀、続く幸せ (Evolving SHIGA)」を
ビジョンの基本理念・目指す姿としてはどうか

(参考資料) 次期滋賀県基本構想の基本理念等

Evolving(エヴォルヴィング) SHIGA

外部の環境変化に合わせ、伝統・文化や先人の知恵などを生かしながら、柔軟に発展していく滋賀の姿を「evolving(進化)」という言葉で表現したもの。

みんなで目指す2030年の姿



三側面の調和
による
持続可能な滋賀

【論点5】 産業振興の基本的方向

・2030年の目指す姿からバックキャストिंगにより産業振興



- ① 産業を支える要素・側面のアプローチ
- ② 重点分野を設定するアプローチ



・「② 重点分野を設定するアプローチ」(過去、3K・BI、5つのイノベーション)でなく、「① 産業を支える要素・側面のアプローチ」から検討してはどうか

(参考資料)戦後における本県の経済・産業の変遷



I 本県の経済・産業の変遷

1950年代まで
戦後復興期

- ・農業中心の産業構造
- ・琵琶湖の豊富な水資源を背景に、主に**繊維産業**が発展



1960～70年代
高度経済成長期

- ・工業団地の造成による工場誘致
- ・電気・機械などの**大企業**の工場の立地
- ・大企業のサプライチェーンを支える**中小企業**が多数生まれるなど、**加工組立型産業**が集積



1980～90年代
工業の量的拡大から質的向上へ

- ・理工系大学の誘致、滋賀県工業技術総合センターの設置による**研究開発型企业**の育成



2000年代
グローバル化・IT化の進展

- ・産学官連携の推進、**高付加価値産業**の育成（環境産業、健康福祉産業、観光産業、バイオ産業、IT産業）



2010年代
人口減少社会への対応

- ・我が国は「**人口減少社会**」へ。**国内外の課題解決に貢献する成長産業**を振興（水・エネルギー・環境、医療・健康・福祉等）
- ・IoT、AI等の活用、SDGs（持続可能な開発目標）の国連での採択



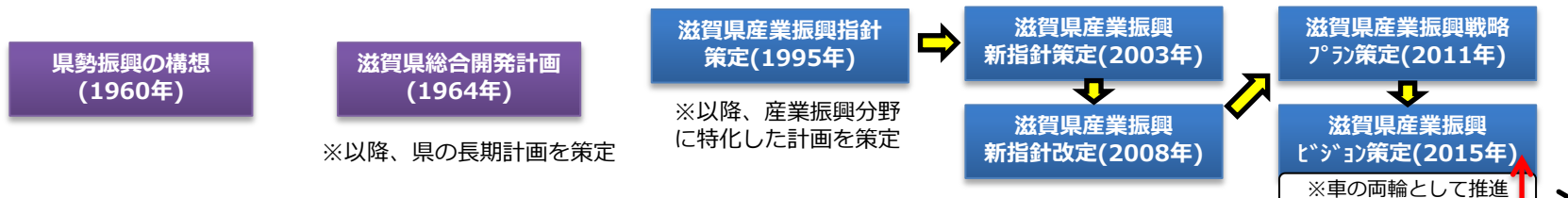
II 県人口の推移

179千世帯 86万人 (1950年)	183千世帯 84万人 (1960年)	215千世帯 89万人 (1970年)	295千世帯 108万人 (1980年)	352千世帯 122万人 (1990年)	440千世帯 134万人 (2000年)	518千世帯 141万人 (2010年)	538千世帯 141万人 (2015年)
---------------------------	---------------------------	---------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------

III 県内総生産の推移(名目) ※

	①:0.02兆円 ②:0.05兆円 ③:0.06兆円 合:0.13兆円 (1960年)	①:0.05兆円 ②:0.31兆円 ③:0.26兆円 合:0.60兆円 (1970年)	①:0.02兆円 ②:0.18兆円 ③:0.37兆円 合:2.26兆円 (1980年)	①:0.07兆円 ②:2.92兆円 ③:2.11兆円 合:5.00兆円 (1990年)	①:0.06兆円 ②:2.88兆円 ③:3.18兆円 合:5.99兆円 (2000年)	①:0.03兆円 ②:2.84兆円 ③:3.14兆円 合:6.03兆円 (2010年)	①:0.03兆円 ②:2.79兆円 ③:3.32兆円 合:6.16兆円 (2015年)
--	---	---	---	---	---	---	---

IV 本県の産業振興の計画等



※①は第一次産業（農林水産業）、②は第二次産業（製造業、建設業、鉱業）、③は第三次産業（卸売・小売業、宿泊・飲食サービス、金融・保険業等）を指す。また、県内総生産（合計）は、①～③は四捨五入し、総資本形成に係る消費税等を含むため、合計額は一致しない。

(参考資料) 産業振興の基本的方向

基本理念(変わる滋賀、続く幸せ
(Evolving SHIGA))



産業を支える要素・側面

社会・環境

生産性
の向上

投資

信用・認証

ネットワーク

地の利
水の利

技術
(イノベーション)

グローバル

人材

【ポイント①】
2030年からバツ
クキャスティング

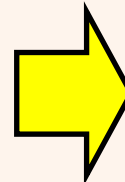
【ポイント②】
産業を支える要
素・側面から振
興を図り、本県
を牽引する産業
を創出

例: ●●産業

例: ■■産業

例: ▲▲産業

⋮



時代の潮流

- ・ 人口減少と高齢化
- ・ 「人生100年時代」
- ・ AI、IoT等の技術革新
- ・ モビリティ（自動運転）
- ・ 地球温暖化の深刻化
- ・ 世界的な脱炭素化の流れ
- ・ 生態系バランスの変化
- ・ 多発する大規模災害 等

成長市場(例)

- ・ 水環境ビジネス
- ・ 医療・ヘルスケア産業
- ・ 発酵産業
- ・ 航空機産業
- ・ 基礎素材・デバイス関連
- ・ 森林空間の利活用 等

本県の特徴

- ・ 琵琶湖の保全・再生・活用
- ・ 「日本農業遺産」
- ・ 理工系大学等の集積
- ・ 健康長寿かつ若い県 等